

# 公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

## 平成30年度 事業報告書

### 目次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	2
1 研究活動	
(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
(2) 鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
(1) 指導法に関する講習会の開催	
①音鑑・夏の勉強会 2018	
②音鑑・冬の勉強会 2018	
③音鑑・ICT 勉強会 2018	
(2) 研究大会・講習会等の後援	
(3) 広報活動	
(4) 音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充	
3 出版	
(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
(2) 書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業（公益目的事業2）	6
1 第51回 論文・作文募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	7
1 音楽鑑賞のきっかけづくり	
2 財団保有の音楽関連資料の活用	
3 財団主催コンサートの開催	
4 財団主催音楽鑑賞講座の開催	
5 電子書籍の発行	
6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
7 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	9
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	9

# I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

## 1 研究活動

### (1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

平成30年度は、「これからの鑑賞の授業」1&2を踏まえ、過去に出版したLD教材の中から「歌曲」を教材とし、その指導事例と教材(映像資料、ワークシート、解説資料等)に関する研究を行った。

上記以外に当財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2018」「音鑑・冬の勉強会2018におけるグループ研修、ワークショップ等を企画立案し実施した。

No.	開催日	検討内容
第1回	平成30年 4月15日 (小学校部会) 平成30年 5月22日 (中学校部会)	・「歌曲」の教材化・題材化：事例開発の方向性について検討 ・夏の勉強会：企画
第2回	平成30年 6月24日	・夏の勉強会：グループ研修の内容検討 ・「歌曲」の教材化・題材化：事例開発の方向性について検討
第3回	平成30年 7月15日	・夏の勉強会：グループ研修の内容検討 ・「歌曲」の教材化・題材化：事例検討
第4回	平成30年 9月23日	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討 ・「歌曲」の教材化・題材化：事例検討
第5回	平成30年11月18日	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討 ・「歌曲」の教材化・題材化：事例検討
第6回	平成30年12月9日 (小学校部会) 平成30年12月2日 (中学校部会)	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討 ・「歌曲」の教材化・題材化：事例検討
第7回	平成31年 2月17日 (小学校部会) 平成31年 2月10日 (中学校部会)	・「歌曲」の教材化・題材化：事例検討

### 研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	梅宮 真里	福島県福島市立吉井田小学校教諭
	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手東小学校教諭
	熊倉佐和子	東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立つづきの丘小学校校長
中学校	安部 文江	長野県佐久郡御代田町立御代田中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立御成門中学校主任教諭
	高道有美子	東京都八王子市立打越中学校主任教諭
	長者久保希史子	青森県八戸市立中沢中学校教頭
	水谷 愛	埼玉県川越市立鯨井中学校教諭

## (2)鑑賞指導に関する調査

音楽科で今後必要とされる教材、教具に関するニーズ調査を継続的に実施し、その内容を研究委員と共有するとともに、音鑑・ICT勉強会2018の講義内容に取り入れ、参加者と共有した。

## 2 普及活動

### (1)指導法に関する講習会の開催

#### ①音鑑・夏の勉強会2018(教員免許更新講習選択領域6時間+12時間認定)

体験型の研修会として、1日目の音楽講座は2つの内容で構成した。「篠笛」については、その基本的な奏法を講義と演習で学び、篠笛の簡単な曲の演奏に挑戦した。また郷土の音楽から「こきりこ」について体験し、教材化について研修した。2日目・3日目は鑑賞指導と評価について、主にグループ毎に研修を行った。「パール・ギュント」、「待ちぼうけ」、ベートーヴェン作曲「交響曲第5番」を教材にさまざまな音源を聴き比べ、ねらいに適した教材を選ぶ方法、〔共通事項〕を窓口にした楽曲分析の方法、題材構成から指導の流れの考え方や評価の方法などを、講師のアドバイスのもと深めた。

日程：平成30年8月17日～19日(3日間)

会場：松本記念音楽迎賓館(東京都世田谷区)

受講者：第1日 40名〈内訳〉小学校教員20名、中学校教員19名、  
その他1名

第2・3日 39名〈内訳〉小学校教員16名、中学校教員22名  
その他1名

内、教員免許状更新講習受講者 第1日：33名、第2・3日：27名

テーマ：よりよい授業を求めて

内容：第1日 (1)講義と演習「郷土の音楽を体験してみよう—『こきりこ』を中心に」

(2)講義と演習「篠笛を吹いてみよう」

(3)履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

第2日 (4)講演「よりよい授業を求めて」

(5)講義「これからの鑑賞領域の指導と評価」

(6)グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際：事例作成

第3日 (7)グループ研修「鑑賞領域の指導と評価」の実際：事例作成(続き)

(8)グループ研修の発表、講評

(9)履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

講師：藤沢章彦(当財団理事・研究主管)、福原寛(福原流篠笛方/国立音楽大学講師)、河崎秋彦(茨城県取手市立取手東小学校教諭)、財団研究委員3名：館雅之(神奈川県横浜市立つづきの丘小学校校長)、梅宮真里(福島県福島市立吉井田小学校教諭)、熊倉佐和子(東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭)、勝山幸子(東京都港区立御成門中学校主任教諭)、安部文江(長野県佐久郡御代田町立御代田中学校教諭)

後援：全日本音楽教育研究会

#### ②音鑑・冬の勉強会2018(教員免許更新講習選択領域12時間認定)

財団の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。

日程：平成30年12月26日～27日(2日間)

会場：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

受講者：138人〈内訳〉小学校教員51名、中学校教員55名、高等学校教員6名、  
特別支援学校3名、その他23名

内、教員免許状更新講習受講者45名

テーマ：よりよい授業を求めて

内容：第1日 (1)講演「よりよい授業を求めて」

(2)講演「音楽科における主体的・対話的で深い学び」

- (3) 実践報告「学びの質が深まる授業づくり」
- (4) 分科会ワークショップ「音楽のよさや面白さを味わう鑑賞指導」
- 第2日 (5) 講演「新学習指導要領の全面実施に向けて  
～改訂の概要と授業改善のポイント」
- (6) 講演「ハイパーソニック効果（超高周波音源）が脳にもたらすもの」
- (7) 音楽講座「雅楽とその魅力」
- (8) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：藤沢章彦（当財団理事・研究主管）(1)  
 臼井 学（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）(2)  
 大橋 明（前渋谷区立渋谷本町学園統括校長）(5)  
 仁科エミ（放送大学教授）(6)  
 伶楽舎から8名(7)  
 財団研究委員10名(4)

発表：埼玉県日高市立高麗川小学校 蝦真理子(3)

後援：全日本音楽教育研究会

### ③ 音鑑・ICT勉強会2018（教員免許更新講習選択領域6時間認定）

音楽科においてもICTを活用した授業が求められている現状に対し、音楽の授業で活用できる教材の作り方など、ICT活用の初歩的な勉強会を年2回開催した。

日程：平成30年7月30日（1日間）

平成30年7月31日（1日間）

会場：松本記念音楽迎賓館（東京都世田谷区）

受講者：述べ17名〈内訳〉 小学校教員7名、中学校教員7名、その他3名

内、教員免許更新講習対象者：9名

内容：(1) 講義「教育の情報化と音楽科教育」

〈教育の情報化・情報教育・教科教育におけるICT活用・音楽科におけるICT活用などについて〉

(2) ワークショップ「デジタル教材を作ってみよう」

Windowsの基本的なソフトウェアやフリーウェアを使用して、鑑賞指導用の簡単なデジタル教材作成方法を研修。

(3) 履修認定試験（教員免許状更新講習受講者のみ）

講師：林田壮平（当財団事務局主査・ICT担当）

### (2) 研究大会・講習会等の後援

鑑賞の指導法に関する研修会に講師を派遣・紹介、機材を貸出しするなど、各地の音楽教育研究会などの研修を18件支援した。

・「これからの鑑賞の授業」講習会への講師派遣。（12件／参加人数：549名）

・ICT活用のための講習会への講師派遣。（3件／参加人数：102名）

・機材貸出し。（3件）

### (3) 広報活動

#### ●パンフレットの制作・ダイレクトメールの発送

財団の事業内容を広報するため、平成30年度財団事業案内パンフレットを制作し、研究活動が活発な全国の国立大学附属全国の小学校・中学校・高等学校及び大学の合計約500件に向けてダイレクトメールを発送した。

#### ●音楽教育研究大会に出展し、先生方と直に対面して財団の事業を広報した。

・全日本音楽教育研究会全国大会 和歌山大会(総合大会) 他2件

#### ●音楽教育研究大会の紀要等に向けて広告を掲載した。

・全日本音楽教育研究会全国大会 和歌山大会(総合大会) 他9件

●インターネットからの発信

メールマガジンやSNSでは、出版物の発行や勉強会の募集などの財団の情報をタイムリーに、音楽教育関係者向けの当財団ウェブサイト「ONKANウェブネット」では、各地で行われる研究大会や公開授業などの音楽教育に関わる情報と、過去に財団が発行した月刊誌の記事など教材研究や指導法に役立つ情報を発信した。

(4)音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充

上記(3)広報活動と連携を図り、会員数は若干増加した。

3 出版

(1)季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊「音楽鑑賞教育」(Vol. 33～Vol. 36)を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。また、授業づくりに役立つよう教科書掲載の教材を中心に、教材研究に役立つ情報「教材ノート」、その教材を扱った展開例「私のレシピ」を毎号4曲取り上げた。

No.	通巻	発行日	特集
Vol. 33	537号	平成30年 4月 1日	音楽の授業づくり 「音楽科における『知識及び技能』とその指導」
Vol. 34	538号	平成30年 7月 1日	音楽の授業づくり 「新学習指導要領における〔共通事項〕」
Vol. 35	539号	平成30年10月 1日	音楽の授業づくり 「新学習指導要領の趣旨を生かしたグループ活動とは」
Vol. 36	540号	平成31年 1月 1日	音楽の授業づくり 「子どもたちが『音楽的な見方・考え方』を働かせる授業」

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名前	職名・役職
川池 聰	当財団理事
加藤 徹也	当財団理事／武蔵野音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学教授
佐野 享子	横浜高等教育専門学校講師
藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

尚、年間購読者数を増やすために、教員歴の若い教員にも取り組みやすく、読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたりするなど、誌面構成を工夫した。

(2)書籍、映像資料の発行

- 平成29年度の研究活動で開発した研究成果「指導事例と教材」を、DVDブック事例集3「オーケストラの音楽I」(事例と解説、ワークシート等の補助資料、映像資料)として出版した。
- 販売に関しては、季刊誌を含め Amazon との取引を開始し、販路拡大を図った。

## Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業 (公益事業目的2)

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。平成30年度の選考委員会は任期2年の1年目となり下記3名の方に委嘱した。なお、論文・作文の審査を行うための選考専門委員は、作文の部を一時休止したため、研究助成の部のみ下記3名の方に、審査顧問を下記1名の方に委嘱した。

※選考委員長とチーフを除き五十音順、職名及び役職は平成30年10月現在、敬称略

### 選考委員

渡邊 學而	選考委員長／当財団常務理事／音楽評論家
河野 正幸	聖徳大学教授／全日本音楽教育研究会副会長
森 俊介	パイオニア株式会社総務部部长

### 選考専門委員 研究助成の部 ◎：チーフ

◎藤沢 章彦	当財団理事／東京女子体育大学講師／元国立音楽大学教授
小佐野 圭	玉川大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事
加藤富美子	東京音楽大学教授

### 審査顧問

福井 直敬	当財団理事／武蔵野音楽大学学長／全日本音楽教育研究会会長
-------	------------------------------

### 1 第51回 論文・作文募集

今年度は、作文の部を一時休止したため、研究助成の部のみを実施した。

#### ①募集テーマ

研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

#### ②実施期間

募集期間：平成30年 7月 1日～ 9月28日

審査選考：平成30年10月 2日

平成30年10月 3日～10月30日

平成30年11月20日

入選発表：平成30年12月 1日

平成31年 4月 1日

選考委員会

各部門別審査・審査委員会

最終選考・選考委員会

ONKAN ウェブネット及び郵送通知

入選論文発表

(季刊「音楽鑑賞教育」Vol.37)

#### ③応募状況

応募数 1件

#### ④審査基準

次の(1)から(4)までを満たす研究計画である

(1) 鑑賞領域の学びを中心としている

(2) これからの音楽科教育に資する内容である

(3) 実践を伴った研究である

(4) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである

#### ⑤入選結果

入選 1件

#### ⑥副賞

助成金 499,616円

## 2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

## Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

### 1 音楽鑑賞のきっかけづくり

財団ホームページ『音楽鑑賞のすすめ』の充実については、漸く発行された電子書籍を中心に、平成30年度は財団主催コンサート等のご案内の掲載により進められた。引き続き音楽鑑賞について“なるほど!”というきっかけの充実を図っていく。

### 2 財団保有の音楽関連資料の活用

世の中がアナログ時代の再来を迎えている風潮もあり、前年度購入のサイモン・ラトル指揮、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団のLPの鑑賞会を今年も行った。また松本記念音楽迎賓館ファンクラブの集いで、資料室の音源の活用も行った。

### 3 財団主催コンサートの開催

主催コンサートを2回行った。

#### ① 公演日：平成30年6月3日 午後1時半開演

公演名：渡邊 學而企画 聴いてわかる音楽「ロンド形式」

会場：松本記念音楽迎賓館 Aホール

出演：一般社団法人 みむみむの森（三村真理、小野アティエ） 講話：渡邊學而

入場料：大人2,000円（当日2500円） 学生1000円 入場者数：36名

#### ② 公演日：平成31年3月2日 午後2時開演

公演名：シリーズ“これが聴きたかった！”第3回 落語の語り口で導きオペラ歌手が歌う  
オペラ「ラ・ボエーム」「愛の妙薬」のARIA

会場：世田谷区民会館ホール

出演：橋本恵史(落語家&歌手)、田村麻子(Sop)、 澤崎一了(Ten)、仲田淳也(ピアノ)

入場料：一般3,500円、児童・生徒・学生1,000円 / 入場者数：570名

コンサート①は、音楽聴感を実際の演奏を通じて育てたいとの目的をもつ、みむみむの森と、音鑑の強みである音楽解説者で常務理事の渡邊學而氏の解説を合わせた講座。

受講者はもともとクラシック音楽に興味のある層であったが、「講演内容がわかりやすく、有益で、これからの鑑賞活動に生かせる」と感謝のコメントが殆どだった。

コンサート②は、前回業界初の試みとなった、活動写真弁士と映像を使ったオペラの紹介に続くものとして、台本制作、落語にも才能を見せる歌手のナビゲートを使い、一線級の歌手との組み合わせで開催した。実施にあたっては、前回同様株式会社世田谷サービス公社の共催を得、世田谷区の後援を得た。これにより会場利用料を不要にできた。また企画実現については、公益財団法人日本オペラ振興会の協力を得た。

入場者の反応は下記の通りであった。

＜落語でオペラ アンケート結果＞

大変満足	79人
まあまあ満足	10
良くなかった	1
無回答	11

オペラに親しむ企画としては好評であったが、興業収支は協賛金、広告費分が浮いた程度で、口コミに頼ることが分かった集客力において、財団のチケット販売力のなさを再度確認するところとなった。公演や講演活動を健全な収支で行なうには、興業のできる体制を志向する必要がある。

#### 4 財団主催音楽鑑賞講座の開催

松本記念音楽迎賓館の楽器と庭園をフルに活用する講座と、受講者の利便性を考慮した駅チカ会場を利用する2つのパターンの講座の計画を立案した。

- ① 午後のひとときを、お茶と音楽で！『鍵盤楽器の音楽とその魅力に迫る！』  
内容：第1回：ピアノ、第2回：チェンバロ、第3回：パイプオルガン、第4回：ピアノ  
会場：松本記念音楽迎賓館Aホール、レセプションルーム、立礼茶室“希望亭”  
講師：田村緑（ピアノ）、大塚直哉（パイプオルガンとチェンバロ）  
時期：2018年9月17日、10月28日、12月22日、2019年1月5日  
各回13：30開講で90分間。  
料金：3,500円（各回） 定員：40人（各回）、参加人数（全4回）：162名
- ② シリーズ“へええ～！新発見”第1弾『クラシック音楽×いきものたち』  
内容：第1回：鳥、第2回：動物、第3回：植物、第4回：昆虫と魚  
会場：日本橋三越本店 三越カルチャーサロン  
講師：渡邊學而  
時期：2018年10月3日14：00～、10月31日10：30～、11月14日  
13：00～、12月5日14：00～  
各回平日開講で90分間。  
料金：3,240円（各回） 定員：30人、参加人数（全4回）：59名

#### 5 電子書籍の発行

音楽をより楽しく鑑賞するために“音楽が聴ける本”としての強みを活かした電子書籍は、平成26年度に構想し、その後シリーズの企画、内容の検討と試作を続けてきた。平成30年度はその発行に向けて音源提供元との使用条件の交渉、販売方法の確定、委託業者の選定、委託契約内容の交渉等に取り組み、クラシック音楽を題材とした電子書籍の第1弾「交響曲第5番」（ベートーヴェン作曲）、第2弾「春」（ヴィヴァルディ作曲）を発行した。（第1弾は無償）

構成・執筆：渡邊學而（当財団常務理事／音楽評論家）

#### 6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

例年通り実行した。



## 7 チェンバロ音楽普及の支援

### ●日本チェンバロ協会主催の「チェンバロの日」の支援

日本チェンバロ協会（久保田慶一会長）による「チェンバロの日2018」が平成30年5月19日（土）～20日（日）に開催され、各室満席の盛況だった。

今回は地方で活躍される演奏家に松本記念音楽迎賓館での演奏の機会が与えられ、ますますチェンバロの殿堂の趣を發揮していた。

### ●若手演奏家の発掘・育成の会場としての支援

平成30年8月11日、恒例の夏休みの期間に行われた、ボランティア活動家・山野辺氏のチェンバロのヤングコンサートを、当日の会場募金金額を会場利用料にあてる形で支援した。

チェンバロ奏者として頂点にある一人・曾根麻矢子による初心者向けワークショップ、及びマスタークラスの開催を支援した。4月13日 6月2日 8月25日 9月1日、2日、15日

### ●日本チェンバロ協会とタイアップした鑑賞教室・勉強会の支援

平成31年2月3日、昨年同様、日本チェンバロ協会のチェンバロ弾き合い会を支援開催した。

## IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

### 1 岡本地域緑地の保全活動

例年通り地域の保存樹林を維持した。

### 2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座をNPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。森林や自然の生き物の説明は、それぞれ専門家の実地指導で行われた。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
春の講座	平成30年 5月27日(日)	松本記念音楽迎賓館の植物 崖線樹林の機能と役割	22名
夏の講座	平成30年 8月12日(日)	世田谷の水辺と湧き水 水の流れと水辺の生き物	8名キャンセルあり
秋の講座	平成29年12月 9日(日)	クリスマスリースの素材で知る地域の自然	24名

## V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

テレビ番組、映画は24回、音楽番組は4回で、Aホールを常設スタジオとして利用したプラネット・ワイ社の利用。8月の利用を最後に収録場所が他に替わり、利用が伸びなかった。

#### 附属明細書

事業における重要な事項は平成 30 年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規制」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無い。